

## 新年を迎えて

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症の影響を受ける1年となりましたが、保護者や教職員、市町（組合）教育委員会をはじめとする関係の皆様には、子どもたちの学びの保障や健康管理、感染予防などにご尽力をいただいておりますことに、改めて心より感謝申し上げます。

こうした中、本府においては、これまでやむを得ず中止していた留学事業を、外国人留学生との対面での交流と、タブレットを使った海外とのオンライン交流を組み合わせたハイブリッド型の英語研修として新たにスタートさせました。その他、文化庁の京都への移転が迫る中、地元の文化財を題材にした課題解決型の学習など、京都府の強みを活かした取組も進めているところです。

「東京2020オリンピック・パラリンピック」では、府立学校の卒業生をはじめとした京都ゆかりの出場選手が活躍しており、今後は、これまでの取組の成果を踏まえた、ジュニア世代の育成・強化につなげていくことが重要であると考えております。

昨年、国においては、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が取りまとめられ、府教育委員会では、「教育環境日本一」の実現を掲げた「第2期京都府教育振興プラン」を策定しました。これらで掲げられた大きな目標を実現するために、本年は教育改革に向けた歩みを着実に進めていかなければなりません。

まずは、全国に先駆けて実施してきた小・中学校で30人から35人程度の学級編制が可能な京都式少人数教育によるきめ細かな指導を進めながら、4月から始まる教科担任制も含めた新しい教育指導体制をしっかりと構築するとともに、学校運営に必要な仕事の効率化などを積極的に進め、教職員がいきいきと子どもに向き合える環境づくりに努めてまいります。

更に、新しい時代の教育において、ICTの活用は必要不可欠であり、小・中学校では国のGIGAスクール構想でタブレット端末が整備され、府立高校でも今春の新入生から全校で導入することとしています。1人1台端末を活用し、各学校において子どもたちの能力・適性や興味・関心に応じた最適な学びと協働的な学びなどを充実するとともに、教員のICT活用指導力の向上にも取り組んでまいります。

さて、今日の府立高校を取り巻く状況や社会の劇的な変化を見据え、現在、令和4年度から10年間の府立高校の方向性を示した「府立高校の在り方ビジョン（仮称）」の策定に向けた検討を進めております。府民の皆様からも広くご意見をいただきながら今年度中に策定することとしており、府立学校ならではのスケールメリットを活かした取組を充実するとともに、多様な教育ニーズに合った柔軟な教育システムも整備してまいります。

4月には、「地域と共に歩む学校」を教育コンセプトに掲げた井手やまぶき支援学校が開校します。PTA準備委員会の保護者の方からも、開校を前に「とてもワクワクしている」「より良い学校となるよう先生方と協力して頑張っていきたい」との期待の声を伺っており、子どもたちが地域で自分らしく暮らし、働くことができ、共生社会の担い手となれるような取組を進めてまいります。

また、経済的に厳しい家庭への支援や、いじめや不登校、ヤングケアラーなどの課題への対応、さらには特別な支援を要する子どもたちの学びなど、全ての子どもが安心して学ぶことが出来るよう、これまで以上に一人一人に寄り添いながら取り組んでまいります。

教育改革は待ったなしです。全ての子どもが「包み込まれているという感覚」を実感でき、「自己肯定感」を高めることができる環境を整えていくためには、学校だけではなく、家庭や地域、市町（組合）教育委員会、関係機関との連携を強化し、社会総がかりで教育に取り組むことが大切です。

誰もが、よりよい社会と幸福な人生の創り手となれる「教育環境日本一」に向けて、皆様と手を携えながら、新しい京都府の教育の実現に全力を尽くしてまいります。

結びにあたり、今年一年の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

令和四年一月